

1 水循環小委員会の目標と検討の進め方

1) 水循環小委員会の目標

『水・物質循環系の再生』のために達成すべき目標

- 目標①：湿原再生のための望ましい（1980年以前の）地下水位を保全する。
- 目標②：釧路川流域の水・物質循環メカニズムを把握し、
湿原再生の各種施策の手法の検討や評価が可能となるようにする。
- 目標③：湿原や湖沼、河川に流入する水質が良好に保たれるように、
栄養塩や汚濁物質の負荷を抑制する。

2) 検討の進め方

平成19年度までの調査・検討から、以下の課題が明らかになった。

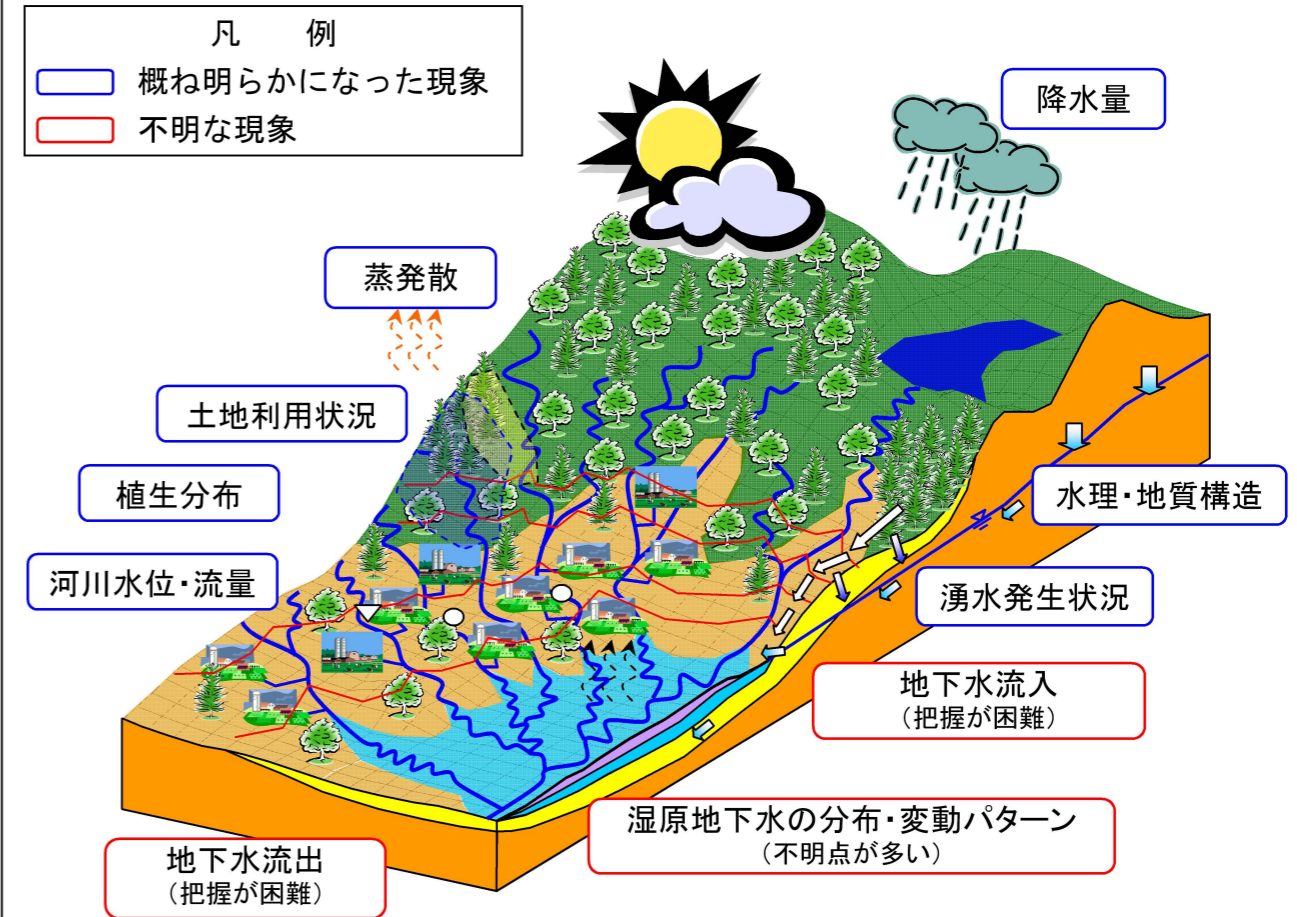
- 目標①について：1980年以前の地下水位データがない。
⇒現況の地下水位データから過去の状態を推定することは困難である。
- 目標②について：水循環メカニズムが複雑である。
⇒個別の地下水位データ、河川水位データなどの分析だけでは、
流域全体の水循環メカニズムを把握することができない。

これらの課題を解決し、目標を達成するためには、
地下水位シミュレーションの実施が有効と判断された。

第7回水循環小委員会（H20.1）での議論結果

シミュレーションの実施にあたっては、高度な専門性を要することから、
シミュレーションについて専門的に検討するワーキングが必要と判断された。
⇒平成20年3月 シミュレーションについて専門的に検討するワーキングとして
『水循環検討会』を設置

水循環検討会において、釧路湿原の実際現象の分析とシミュレーションについて議論しているところ。



地下水位シミュレーションの目的

釧路川流域の水循環メカニズムを科学的に解明する。

- 1) 湿原水収支の把握
シミュレーションにより、調査・観測では把握が困難な地下水流入量・流出量などの不明量を推定する。
- 2) 目標①について
地下水位データがない1980年以前の地下水位の状況をシミュレーションにより推定する。
- 3) 目標②について
現況の地下水分布や変動パターン、河川流量などを再現して、釧路川流域の水循環メカニズムを解明する。

図 1.1 水循環小委員会の目標と地下水位シミュレーションの目的